

赤いりんご vol.92

フレフレ！ドクター！

青森県医師会
医師応援キャラクター
フレフレうさぎ

暑い日が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。盛夏の疲れを感じやすい時期かと存じます。皆さまどうぞご自愛ください。



今月号の内容

- ・2026年度青森県医師会・弘前大学医学部男女共同参画セミナー
- ・医師相談窓口のご案内
- ・臨床研修病院等訪問(八戸市立市民病院)
- ・第7回男女共同参画委員会
- ・第9回八戸地域臨床研修医歓迎会

活動報告

- ・6/16 青森県医師会医師臨床研修病院等訪問(八戸市立市民病院)
- ・6/22 相談受付担当者向けハラスメント講演会
- ・6/25 6月ワークライフバランス推進室運営会議
- ・7/8 2026年度青森県医師会・弘前大学医学部男女共同参画セミナー
- ・7/16 7月ワークライフバランス推進室運営会議
- ・7/23 第1回青森県医師会男女共同参画委員会

2026年度青森県医師会・弘前大学医学部男女共同参画セミナー

令和8年7月8日 弘前大学医学部基礎校舎 基礎第一講義室

青森県医師会と弘前大学医学部との共催のもと、「2026年度青森県医師会・弘前大学医学部男女共同参画セミナー」を開催いたしました。

本会富山副会長の開会の辞に続き、工藤常任理事より医師会の活動紹介を行いました。その後、八戸市立市民病院事業管理者 今 明秀先生より、「劇的救命」と題して特別講演をいただきました。当日は、医学生106名、現地及びオンラインを合わせて医師13名が参加し、盛会のうちに終了いたしました。



特別講演 【劇的救命】



八戸市立市民病院
事業管理者 今 明秀 先生

今先生より、ドクターヘリやドクターカーを活用した救急医療の最前線における実例を交えながら、救命困難とされる重症患者の治療経験についてご講演いただきました。また、患者を救うためには高度な救命技術だけでなく、多職種によるチームワーク、迅速な判断、そして最後まで諦めない姿勢が重要であることが紹介されました。

さらに、「医師として逆境を乗り越えるには、頑丈な心ではなく柔軟な心が必要

である」とのメッセージとともに、困難な経験を積み重ねることが医師としての成長につながり、患者やその家族に寄り添う姿勢を育むことの大切さについても語られました。

医学生にとって、救急医療の最前線に触れるとともに、医師としての使命感や心構えについて理解を深める貴重な機会となりました。

医師相談窓口のご案内

～青森県委託事業（医師の働きやすい環境づくりへの支援事業）～

青森県医師会では、お忙しい医師の皆様のために、各種保育サービスの情報提供や、育児休業制度や復職などに関する相談を受け付けております。

○保育サービス情報提供

- ・ベビーシッターを探したい。
- ・病児保育をやっているところはある？
- ・病院からの急な呼び出し！子どもを預かってくれる所は？

○医師就業などの各種相談

- ・育児が一段落したので復職したいが不安…
- ・日本医師会の女性医師バンクに登録するには？
- ・育児休業制度について詳しく知りたい！

※相談室での直接のご相談も行っております。(現役医師が対応します。ご予約が必要です。)

医師会加入の有無を問わず、医師であればどなたでもご相談いただけます。

些細なことでも、お気軽にご相談下さい！

専用フリーダイヤル:0800-800-1400

電話受付時間:月～金 9:00～17:00

FAX:017-718-3152

E-mailアドレス: ishi-ouen@aomori.med.or.jp

URL: <http://www.aomori.med.or.jp/joseishi/index.html>

※受付時間外はメール・FAXでお受けします。

お預かりした個人情報、ご本人様の同意なく第三者に開示することはありません。

臨床研修病院等訪問(八戸市立市民病院)

令和8年6月16日

本会役員から、本会が実施している医師支援事業の概要や取組内容について説明を行うとともに、過去に実施した「医師の産休・育休」をテーマとした対談の内容を紹介した。その後、参加者との意見交換を実施し、医師としての働き方やキャリア形成、ワークライフバランスなどをテーマに活発な議論が交わされた。

研修医からは、「学習、勤務時間、収入のバランスをどのように考えながらキャリアを形成していけばよいか」との質問が寄せられた。これに対し、「ライフステージや年齢によって仕事や生活における優先順位は変化するものの、20代のうちは医師としての基礎を築く重要な時期であるため、夜間・休日の当直や救急対応、さまざまな症例を経験できる機会など、学習効果の高い実践の場を自己研鑽の機会として計画的に確保することが大切である」との回答があった。また、休暇制度についても、1日単位の休暇だけではなく、時間単位休暇などの制度を積極的に活用することで、遅出や早退など柔軟な勤務形態が可能となる環境を病院側が整備していくことが重要であり、多様な働き方を支える体制づくりの必要性についても意見が示された。

上級医からは、「近年はAIの活用によって必要な情報を容易に得られる時代となり、知識の習得そのもののハードルは低くなっている。しかし、

その一方で、実際の臨床現場における判断力や手技、患者とのコミュニケーション能力といった実践的な力量こそが、医師としての大きな差別化につながる要素となっている。患者や地域から『選ばれる医師』となるためにも、若いうちから多くの実地経験を積み重ね、自身の力を養ってほしい」との発言があり、経験の重要性について助言がなされた。

最後に、本会役員からは、「医師会やドクターサポートセンターなど、医師を支援するさまざまな外部資源が整備されているため、必要に応じて積極的に活用し、自身のキャリア形成や日々の診療活動に役立ててほしい」と述べ、今後の医師としての活動を支える支援体制について紹介するとともに、参加者へ積極的な活用を呼びかけた。



第7回男女共同参画委員会

日本医師会男女共同参画委員/青森県医師会
副会長 富山 月子

7月24日に開催された日本医師会男女共同参画委員会では、男女共同参画答申(案)の最終取りまとめに向けた協議が行われました。本号では、「はじめに」に示された基本的な考え方をご紹介します。

答申では、女性医師数の増加や勤務環境の改善など、男女共同参画に関する取組は着実に進展している一方で、医療界における意思決定の場への女性の参画は依然として十分ではないことが示されています。また、働き方改革や専門医制度の導入により、男女を問わず多様な働き方やキャリア形成への対応が求められており、「誰もが自分らしく生きがいを持って活躍できる社会」の実現に向けた環境整備の必要性が述べられています。

さらに、少子高齢化や人口減少、医師偏在、医療機関の承継問題など、地域医療を取り巻く課題を踏まえ、女性医師のみならず、すべての医師が活躍できる環境づくりには、持続可能な地域医療の確保が不可欠であるとしています。その上で、医療界における意思決定過程への女性の参画を一層推進するとともに、学生や若手医師を含めた医師会活動への参加を促進していくことの重要性が示されています。

第9回八戸地域臨床研修医歓迎会

増田病院副院長/青森県医師会
常任理事 工藤 史子

令和8年6月4日、八戸グランドホテルにおいて、第9回八戸地域臨床研修医歓迎会が開催されました。今年度は八戸市立市民病院、青森労災病院、八戸赤十字病院で研修中の臨床研修医の先生方をお迎えし、多くの会員が参加しました。

歓迎会は八戸市医師会長・奥寺良之先生のご挨拶で開会し、崎原先生の乾杯のご発声の後、和やかな雰囲気の中で懇親が深められました。また、水野豊先生、奥寺良之先生をはじめとする関係者から、日本医師会、青森県医師会、八戸市医師会の活動について紹介が行われました。研修医の先生方からは、それぞれ自己紹介とともに研修への抱負が述べられ、「地域医療に貢献できる医師を目指して研鑽を積みたい」といった力強い決意が聞かれました。また、趣向を凝らした自己紹介も披露され、会場は終始和やかな雰囲気に包まれました。

本歓迎会は、地域の医師と研修医との交流を深める貴重な機会となっており、八戸地域全体で若い医師を支え育てようとする温かい思いが感じられる会となりました。研修医の先生方には、本会を通じて地域とのつながりを深めながら、充実した研修生活を送り、将来の地域医療を担う医師として大きく成長されることを期待しております。

青森県医師会では、医師の皆様が、働き方や制度について疑問に感じていることや、「こうすればもっと良くなるのに」と感じていることなど、ご意見・ご要望をお待ちしています。

発行/青森県医師会ワークライフバランス推進室

〒030-0801 青森県青森市新町2-8-21 青森県医師会館 6階

TEL 017-723-1911 FAX 017-718-3152 e-mail ishi-ouen@aomori.med.or.jp

【編集委員】

○富山 月子 ○工藤 史子

○樋口 毅 ○野田 浩